

いつなっとの自然観察会～体験を通して自然と文化を学ぶ～

西垣 由佳子, 藤木 恭子, 西谷 浩子 (但東 野あそびくらぶ いつなっと)

はじめに

私たちは兵庫県豊岡市但東町で活動する任意団体「但東 野あそびくらぶ いつなっと」です。

二か月に一度、地元の親子を対象に自然観察会や体験活動をおこなっています。一見、穏やかな農村風景が広がる但東町ですが、多くの課題を抱えています。過疎化による人口減少やシカの増加による森林被害や農業被害、外来種問題、高齢化が進み、自然に寄り添ってきた文化や暮らしは今、急激に消えつつあります。但東町の自然の中で遊んだ思い出が、子どもたちの原風景となるように、地域に残る自然や文化と一緒に学び、体験しています。活動は5年目を迎えました。



1. あそぶ

自然観察会に参加したことのない人の心のハードルをどうしたら下げられるか、参加者の間口を広げられるか。チラシを見たときに「ちょっと行ってみようかな」と思ってもらえるプログラムや企画を考えています。まずは自然に慣れる、自然をさらに好きになってもらえるような、自然観察会や体験活動を目指しています。

クラフト作業は親子で楽しめる



おもいっきり遊べる川の観察会は大人気



2. 聞く、知る、体験する

集落のお年寄りから昔のくらしの話を聞いたり、生き物の呼び名や使い方を教えてもらうことは、地域の自然史を知ることにつながります。自然のめぐみをどのように利用し、活かしてきたか、使う道具や調理方法など、興味は尽きません。春の自然観察会では野草料理や茶摘み、冬の観察会では鏡餅や餅花かざりを作り、昔から地域で利用されてきた植物や文化を学びました。



子どもたちにつたえる



小豆の炊き方を教えてくれた鍋座会の皆さん

3. 食べる

食文化は生物多様性を色濃く映し出します。観察会の中では、子どもたちと石うすで大豆を挽いてきな粉にしたり、よもぎ餅も作ります。地元の漁師さんが捕ったアユを食べたり、新米をかまどで炊いたり。調理に使うのは町内で採れた野菜やシカ肉です。昔ながらの方法を地域のお年寄りに教えていただきながら、作って食べることは、私たち大人にとっても大きな学びであり、喜びです。



餅つきはいつなつの定番



お茶づくりの仕上げ



火の扱いも少しずつ上手に



川魚はおいしいけど苦いところもある！

4. 「小さな自然再生」を自然観察会に取り入れよう

自然観察をしたり利用するだけでなく、もっと積極的に生きものを増やしたい！5年、10年先も子どもたちと楽しい観察がしたい！そのような思いから、観察会の中では「小さな自然再生」に取り組んでいます。川の中の石を動かし、バープ工と呼ばれる水制を作ります。落ち葉が溜まる場所は水生昆虫や魚の隠れ場所になり、石積みの隙間は泳ぎの苦手な稚魚たちのゆりかごとなります。また、山では希少植物の残るエリアにシカ防護柵を設置したり、朽ち木を使って昆虫のすみかづくりもおこなっています。どちらもメンテナンスが欠かせませんが、今後どうなっていくのか楽しみです。地元の漁協や地権者の協力を得ながら、地域の皆さんにも関心を持っていただくことも大切にしています。



小学校の環境学習の中でのバープ工づくり



朽ち木を集めて昆虫のすみか作り

5. いろいろな協団体とのかかわり

多くの方々の協力を得ながら自然観察会をおこなっています。集落の区長さん達、但馬の自然を長年見てきた他団体のリーダー、何でも気軽に質問できる博物館の先生方。いつなつとのスタッフに生き物の専門家はいませんが、日々、自然のことを勉強しながら楽しく活動しています。



6. 新たな挑戦

山に入ると辛い気持ちになることがあります。林床はシカの食害によって食べつくされ、キャッチボールができそうなほどスカスカです。本来なら季節ごとに植物が花を咲かせ、昆虫の気配も色濃くあったはず。もう何をしても無駄かもしれないという思いと、やるだけのことはやって抗いたい、という両方の思いを抱えながら、メンバーで狩猟を始めました。地元の猟友会の方々に協力いただきながら、シカの捕獲をしています。獲ったシカはできる限り衛生的に捌き、リスクを最大限減らして自家消費ができるよう、知識と技術を習得中です。私たちの背中を押してくれたのは、他の女性ハンターの方々の存在でした。私たちも、いつか誰かの背中を押すことができたらいいなと思っています。



さいごに

私たちは自然体験や観察を通して、自然が好きになる子どもたちを一人でも多く増やしたい、と思っています。環境教育といいながら、楽しそうなことばかりしているように見えるでしょう。しかし、これは入りやすさを考えた入口にすぎません。気候変動や生物多様性問題など、重大な危機に瀕している今、かつて豊かであった但馬地方の自然もまた、急速に失われつつあります。私たちの力では気候変動問題に大きな貢献をすることはできません。私たちにできること・・・それは気候変動問題を横目に見ながら生物多様性問題に取り組むことです。地域の大人や博物館の研究員の方々、学校とも連携しながら、子どもたちの心に種を蒔いていくこと、自分たちの地域の保全を続けていくこと。まだまだ経験も浅く、失敗も多々ありますが、楽しく地道に続けていこうと思います。いつなつとの自然観察会に参加した子どもたちが、ふるさとの自然や文化、環境を大切に思う心を育み、次の世代に繋げていってくれることを願っています。

